

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207496		
法人名	有限会社 まつかさ園		
事業所名	グループホーム まつかさ園 A棟(すずらん)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町字下野家後95-19		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「助け合いの心」に基づき、利用者様一人ひとりのニーズに合わせ、その人らしく、生き生きとした生活を送り、安心、安全な生活環境を整え、「ここが我が家」と思えるよう、住み慣れた地域で、利用者様と職員が助け合いながら生活されているところをアピールします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する温泉施設を利用する方や知人がホームを訪れてくれたり、職員が子供を連れてきてくれたりすることが利用者の楽しみの一つとなっており、町内会や近隣の協力を得ながら地域に溶け込み、安心して生活できる支援が行われています。利用者の思いを尊重して行動を見守り、一人ひとりに合ったケアの実践に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し、代表者、管理者と職員は共有し、日々、目に見える所に展示し実践に繋げている。	町内会の協力を得、職員の生活も理解してお互いに協力し合い、利用者が家庭の延長として安心して生活できるよう理念を共有して実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等に参加したり、近所の方との日常会話や挨拶等日常的に交流している。	散歩や地域の行事に積極的に出かけ、近所の方々に声をかけていただいています。地域の福祉施設合同水害訓練に参加し、ホームの避難訓練には町内会の協力があり、地域の一員として交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議、ほっとネット二ツ井等にて認知症の人の理解を深め地域住民の貢献を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者様、家族さん、市役所職員、地域包括支援センター職員、民生委員、区長、地域住民の方等参加していただき、その中で意見等を取り入れ、サービス向上に活かしている。	町内会から地域の情報や災害対策について積極的に意見、提案が出され、サービスの向上、運営に活かせるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加され市町村職員が参加され情報提供していただき協力関係を築いている。	多職種連携の勉強会に包括支援センター職員が参加されることがあり、また、入退去時の対応等、必要に応じて協力していただいています。水害対策についても行政の協力の下で連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束の理解をし、玄関、居室等の施錠を含め身体拘束をしないケアに努めている。	マニュアルを作成し、研修を行って理解を深め、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修等にて、全職員十分に注意し、虐待を見過ごさないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている利用者様は現在おりませんが、制度について理解を深め活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族さん等わかりやすく説明し、理解、、納得を図り契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族さん等気兼ねなく話して頂けるような場面を作り、又運営推進会議に参加し意見交換したりし、それを運営に反映させている。	面会時や電話で或いは年2回意見書を送付して家族から意見等を確認して改善に繋げており、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、賞与時に意見、目標等話し合う機会を設け反映に努めている。	毎月の職員会議には法人本部も出席している他、日々の業務の中から出される職員の意見は管理者、所長を通じて伝えられ、備品購入や職場環境の整備等、反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員向上心を持って働くことができるように、良い職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修、職員会議等職員を育てる取り組みに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、ほっとネットニツ井等同業者と交流の場を作ったり、勉強会に参加したりしサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心配事、不安な事等を遠慮なく話して頂けるよう耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの不安、心配事は何か、話しやすい場面作りをし、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意見や、やり方等を重視し、支え合い家庭的な雰囲気で行っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さんと連携を図り、面会時、電話、お便り時等で、職員は本人と家族さんの絆を大切にして、本人を支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事、買い物、通院時等住み慣れた場所、人との交流が途切れない様努めている。	お盆を利用して家族が訪ねてきたり、一緒に墓参りもされています。知人との交流やその人の生活習慣を大切に、継続できるように支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう出来るだけリビングに来て頂き利用者様同士の関わりを大切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、本人、家族さんとの連携を行い、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの暮らし方の思いや、希望、意向を十分に把握し、その人らしい生活が送れるよう検討し取り組んでいる。	その人を知るためのアプローチをして職員間で共有し、ホームでの暮らしに活かせるように努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴を活用し、本人の経験を活かし馴染みある暮らし方、これまでのサービス利用の経過をケアマネと相談し合い、生活環境を作り支援している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身状態を把握し、その人の能力に応じて1日の過ごし方を行い現状の把握に取り組んでいる。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様に担当職員を定めケア会議等時、課題について話し合い、本人、家族さんから意向を収集し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員を中心にして利用者、家族の要望を確認した上で話し合いが行われ、計画作成者が現状に即した介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を認知症介護の実践や、介護計画に活かし、介護計画に期間を明示、終了後、モニタリングを行い状態変化に応じ見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達と関係を深めることで利用者様の生活が安全で豊かな暮らしができるよう支援している。(行事、ボランティアの支援)		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際利用者様、家族さんの希望を尊重し、かかりつけ医と相談しながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者、家族の意向に沿って受診されています。協力医との連携による訪問診療、訪問看護が行われ、その人の状態に応じて支援されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に利用者様の状況報告を行い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに家族さんに連絡を行い、入院先とも情報交換し、出来るだけ早期退院できるよう協働している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、家族さんに出来るだけ不安なく、事業所側が出来る事を見極め、主治医と連携し支援している。	家族の希望に応じた対応ができるよう体制を整えています。これまでも希望に沿って看取りが行われており、利用者の状態を医師が家族に説明し、職員は対応方針を共有して支援されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時迅速な対応が出来る様マニュアルを作成し、研修等で実践力をつけられるよう取り組んでいる。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練年2回、水害避難訓練年1回と地域との協力体制を築いている。	水害避難訓練では地域の福祉施設との連携が図られています。ホームの避難訓練では地域の方の役割を決め、避難場所や車椅子の操作方法を説明して安全に避難できるよう対策されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、利用者様の尊厳を傷つけないような声かけや態度に気を付け対応している。	利用者の性格に配慮した言葉遣い、きちんと話を聞くこと、笑顔で対応することを心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の願いや希望、自己決定できるよう信頼関係を築き働きかけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし本人が自由に過ごせる様に、気兼ねない日々の過ごし方を観察し支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとりの個性を大切に、かかりつけ美容室に連れて行ったりと支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望、好みを取り入れたり、旬の食材を取り入れ食事メニューを作成したり、出来る利用者様には準備や片付けと一緒に職員と行っている。	進んで台所に立つ方もおり、できることを職員と一緒にしています。他の利用者を気遣う様子もみられ、献立を話題にしながら楽しく食事をされています。行事食も楽しんでます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、水分量等十分配慮し、夜間帯も水分補給出来る様準備されながら習慣に応じた支援に取り組んでいる。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、寝る前時口腔ケアし義歯の方は洗浄液使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、出来ない人には介助をし、プライバシーに配慮し支援している。	パッド、リハパンの使用は可能な限り控えて布パンツで過ごせるよう対応し、清潔保持に配慮しながら費用の負担軽減にも繋げています。個々の状況によってポータブルトイレを併用し、トイレでの排泄を支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分補給、規則的食事を行い、個々に合わせヤクルト、ヨーグルト等便秘予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し、くつろいだ入浴が出来る様、入りたい時間も利用者様に合わせ支援している。	3日に1度入浴し、それ以外の日には足浴を行っています。拒否される方はなく、車椅子の方も座位を保つことができることから浴槽に浸かって入浴できるよう支援されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの睡眠パターンを把握し安心して休める様支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が使用する薬の目的、副作用、用法、用量を把握し適切に服薬できるよう支援している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かしては掃除、食器拭き、洗濯物たたみ等日課で行われては、職員から感謝の声かけを行っては張り合いや喜びを、個々の楽しみ、趣味等を活かせる様支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等に参加されたり、買い物に付き添われたり、散歩に行かれたり、家族さんと自宅に行かれたりと外出支援を行っている。	近隣施設の行事やお花見ドライブ等に皆で出かけている他、床屋や買い物等の希望に応じて外出されており、個別の支援も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんがほしい物があつたらホームにお金を預けているので遠慮しないで購入しようお話ししており、職員も理解し買い物の支援を行っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話をかけれたり、職員から家族さんにお便り、年賀状をやったりと支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、臭い、温度等に配慮し、季節に応じ飾りつけしたり、家庭的雰囲気づくりをし居心地よく過ごせる様に努めている。	季節に応じて温度、湿度を管理し、快適な空間となるように努めています。また、食堂テーブルの他、ソファを置いて自由に寛げる場所が確保されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が楽しく過ごせる様場所づくりし、会話したり、テレビ観賞したり、思い思いに過ごせる様工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていたタンス、ベット、テレビ、家族写真や備品を持って来られ、居心地よく安心して過ごせる様支援してます。	仏壇や自宅で使用していた思い出のあるタンスを持ち込んでいる方もおり、安心感が得られる居室づくりをされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行出来るよう手すりを全体的に設置、玄関には折りたたみ椅子を設置し身体機能に合わせ電動ベットを使用したり、安全な環境づくりを行っています。		